

平成 28 年度第 1 回成田市総合計画審議会会議録

1 開催日時

平成 28 年 9 月 28 日（水） 午後 1 時 30 分～3 時 00 分

2 開催場所

成田市花崎町 760 番地

成田市役所本庁舎 3 階 第 2 応接室

3 出席者

(委員)

野平会長、新井委員、小椋委員、小野委員、竹内委員

山崎（良）委員、小泉委員、匝瑳委員、高仲委員、山崎（幸）委員

(事務局)

企画政策部 根本部長

企画政策課 伊藤課長、椿課長補佐、米本主幹、長野副主査

4 議事（要旨）

(1) 「NARITA みらいプラン」実施計画のローリングの内容について

- ・昨年度策定した「NARITA みらいプラン」実施計画のローリングにおいて新たに加わった事業や、大きな見直しがあった事業について報告を行った。

(2) その他

- ・今後のスケジュールについて

5 質疑等

□病児・病後児保育施設整備費補助事業について現時点で決まっている内容は。

→成田市の医師団の中で市街地での施設整備について希望している事業者がおり、順調にいけば今年度中に 1 か所、来年度にもう 1 か所整備される予定である。

□保育士確保・処遇改善促進事業の具体的な内容は。また、資格取得のための授業料に対する補助は実施しないのか。

→私立保育園に勤務する保育士に対して、勤務年数に応じて手当を支給する。また、家賃の補助についても、来年度から実施する予定である。なお、保育士資格取得に係る授業料の補助の実施については予定していない。

□在宅医療・介護連携推進事業について、どのような体制で実施するのか。

→「在宅医療・介護連携支援センター」という相談機関を病院内に設置し、退院から在宅医療に切り替わる際のサポートを実施するものである。

□在宅医療に対応してくれる医師は市内にいるのか。

→現時点では少ないと聞いているが、今後、在宅医療・介護連携支援センターが開設されれば、対応していただける医師も増えてくると考えている。

□豊住中学校跡地利活用の概要について教えてほしい。

→健康づくりや創作活動を支援するような施設であり、1階部分を改修し、高齢者がダンスやヨガができる部屋や、トレーニング機器を設置した部屋、陶芸活動のスペース、地域の方のサロンスペースを設置する予定であり、来年の春にオープン予定である。

□成田市は非常に団結していて頑張っていると思うが、様々な事業を実施することでの金銭的な負担の増加や、職員の仕事量の増加について危惧している。

→本市では、投資的な経費に該当する部分にのみ起債を充当することとしており、将来に残るものは将来の世代にも負担していただくことで、負担の平準化を図っている。また、社会資本形成の世代間比率も現世代の負担が他の自治体と比べ高いことから、将来世代への負担もけっして大きなものではないと考えている。

職員の負担について、確かに本市は、他の自治体に比べて予算規模の割に職員数は少なく、その結果時間外勤務が増えている状況である。このようなことから、今後、仕事量に応じた適正な職員数について見直していきたいと考えている。

□元気な高齢者がたくさんいる。高齢者をもっと活用してはどうか。

→介護給付から介護予防へといった流れができ始めている。100歳運動や健康遊具の利用などを推進することで、高齢者の健康寿命を延ばし、より長く様々な活動ができるように支援していく。

□大栄公民館をもっとPRするべきではないか。駐車場も多くサークル活動でも使いやすいくと考えるが。

→昨年度実施した公共施設に係るアンケートの結果でも、市内中心部の公民館などの公共施設は市民から認識されていたが、郊外にある公共施設については、あまり存在を知られていないものが多かったので、今後アピールにも力を入れていきたい。

□現在の特別救助隊から高度救助隊に昇格するにあたり、現存の消防署員だけでできるものなのか。

→高度救助隊として活動するには、消防学校等で現在よりもより高度な知識や技術を身につけるとともに、高度救助隊として必要な資機材を揃えることが必要となる。

□市場の跡地について移転後の活用方法は決まっているのか。

→移転した後の市場の跡地利用については、まだ決まっていない。市場の底地は一部民間の土地もあるので、利活用にあたっては地権者との調整なども必要となってくる。

□旧市場で扱っている、魚介類と青果類は両方とも移転するのか。

→基本的には機能を全て新しい市場に移し、現在の市場がある場所には何も残らないようになると思われる。

□市場の移転については、現在利用している事業者としっかり調整していただき、東京都のようにはならないようにお願いしたい。

□全国的な問題として、今後、公共施設の大量更新が見込まれているが、成田市は公共施設の現状について把握しているのか。

→市では、昨年度から今年度にかけて、公共施設等総合管理計画を策定している。その中で、今後の公共施設の改修や再配置についてどうしていくべきか検討している。計画策定前の時点でも、保育園などの古くなっている建物については順次回収を進めている。今後の方向性としては、壊れたら直すのではなく、壊れないように計画的に直すことで経費の節減を図っていく。

また、成田市は他の自治体に比べて基盤整備は進んでいる。今まで投資的な経費として支出していた分をある程度修繕に回すことで、大幅な支出額の増加にはならないと考えている。

□表参道のセットバックの進捗率は。

→セットバックの進捗率は、平成 27 年度末時点で約 80%である。計画では、あと 3 年で完了する予定である。

□表参道整備事業で車道を石畳風にするとのことだが、石畳風とはどのようなものなのか。

→通常の石畳よりも強度のあるコンクリートを石畳のように加工することで、門前町らしい景観を作り出すとともに耐用年数を伸ばすことで経費削減にも繋がるものである。

□「なりた伝統芸能まつり」は今後も実施する予定なのか。

→もともとは「地域伝統芸能全国大会」という、全国の自治体が持ち回りで実施する事業を平成 26 年度に成田市で実施したことが始まりであり、そのPR効果が非常に大きかったということで、翌年から「なりた伝統芸能まつり」として実施している。実施計画は平成 31 年度まで実施する予定である。

□学校支援地域本部事業の具体的な内容は。

→本事業は学校と地域とで相談しながら内容を決めていくものであるため、学校ごとに実施している内容は違う。下総みどり学園では、学校の統合によりスクールバスでの登下校となったため、大人がスクールバスに同乗し、子どもたちに不安を与えないような取り組みを実施している。本城小では、学校が始まる前に寺子屋のような形で勉強を教えている。久住小では、昔ながらの遊びなどを教えたりしている。

□学校支援地域本部事業のような地域の活動をもっと市民にPRする仕組みができれば、児童側もボランティア側も参加者が増え相乗効果が狙えるのではないか。

→広報でも取り扱ってこなかったと思うので、今後検討していく。

□4 者協議会で具体的な滑走路の位置や騒音区域についての発表があったが、それらを踏まえて再度見直しをする必要があるのではないか。

→今後、順次見直しを行っていく。

□地域の情報格差を是正するために、ケーブルテレビを普及させることは必要なのか。

→現時点で、農村部などの不採算地域ではケーブルテレビの基盤整備がされていないため視聴できない状況にある。どの地域に住んでいても同じ条件で加入することができるようにしたいという方針により、基盤整備については市で行うが、実際に料金を払ってケーブルテレビに加入するかどうかは個人の判断に委ねる。あくまで、農村部などに住んでいる方々が市街地の方々と同じような条件で加入できるような下準備をするものである。

□観光案内所が新しくなるがその概要は。

→供用開始日はまだ決まっていない。広さは約 30 m²で、365 日 8:30 から 17:15 の時間帯でオープンする予定である。以前までは観光協会の職員が案内所の中において、窓口から外にいる観光客に対応するような状況であったが、改修後は案内所の中に入ることができ、対面式で座って案内ができるようになる。

□国際医療福祉大学が開校したが、公津の杜に住んでいてもあまり経済効果が見られないという話を聞く。市で把握している経済効果について教えてほしい。

→まだ1年生が入学しただけであり、目に見える人の流れの増加などはあまり感じられないかもしれない。しかしながら、医学部は6年生まで、看護学部と保健医療学部も4年生までであるので、全学年が揃えば、人数としては2,000人以上となる。その頃には、きっと効果を実感できるのではないかと考えている。また、大学が来たことで、公津の杜周辺の土地価格が上昇しているなどの効果はすでに現れている。

6 傍聴

0名